



ACADE見IC

デザイナー

学術情報メディアセンター

奥村昭夫

客員教授

iPS細胞研究所のロゴをはじめ、京大にはさまざまなシンボルがあります。そのいくつかは、あの江崎グリコのロゴを考案したデザイナーさんが手掛けているのです。今回は、そんな実績のあるデザイナーであり、メディアセンター客員教授でもある奥村昭夫さんにお話を伺いました。（夷）



京大に関わり始めたきっかけ

——妄想が現実になったからには行くしかないなど。

——まず、デザイナーになられた経緯をお聞かせください。

僕がデザイナーになったのは偶然なんやね。家が貧乏だったから、高校の商業科を卒業したら就職しようと考えていたのね。就職先を調べていたら京都の会社に図案（デザイン）をする部署を見つけ面白そうやと思った。高校でデザインを勉強していたわけではなかったし、デザインという概念もあまり認識してなかったと思う。

——そこから京大に関わるようになるまでの経緯を教えてください。

会社を退社してから、2つのデザイン事務所を経て27歳の時に自分の事務所を作った。その後はしばらく仕事を続けていた。それで、10年くらい前に大学にVisual Identity (VI、ある団体のコンセプトを象徴するマーク)を作ろうという流れがあったんだよね。そのころ、京大でVIの研究会が開かれていて、そこに呼ばれたのが京大と関わり始めたきっかけ。そのとき、京大ってええ大学やなあと思った。それから1年間、京大のVIについて研究して、結論が出たところに学術情報メディアセンター教授の美濃さんに連絡してプレゼンさせてもらった。

——どんなプレゼンをされたんですか？

今さら京大に新しいシンボルマークはいるらないということ。研究の過程で出た

紙のゴミの中にはいろんな先生が捨てたものがある。それを集めて作った再生紙を京大のパンフレットなどの印刷物に使ってあげれば、京大の「知恵の血」が連鎖していく。それが京大が社会に伝えるべきコンセプトだと尾池前総長にもプレゼンした。このアイデアが採択されるかは別にして、自分が客員教授か顧問になったら実現できそうだと妄想していたのね。そしたら本当にお呼びがかかって。

——「妄想」が現実になったわけですね。

そのときはまだ仕事をたくさんしていて、週に一日取られることがプラスかマイナスか悩んだ。でも、妄想が現実になったからには行くしかないなど。困ったのが京大に来るときの書類でね（笑）。高卒だから履歴書の学歴が1行で終わるし、論文なんて1本も書いたことない。困っていたら、仕事での実績を論文と同じように評価するよう融通してくださったね。

（法・2 ラブゴリラ）
（今月はこの方！；編）

はみだし
すてーじ

あの教授が気になって夜も眠れない。
⇒そんなあなたにらいふすてーじ。いろんな方々、取り上げます。



デザインについて思うこと

——デザインは、どこか学問的な面もはらんでいる。

——京大でグラフィックデザインの講義をされていますね。先生のデザイン論とはどのようなものですか？

絵を描くこととデザインをすることは別物なんやね。デザインっていうのは材料を自分なりに消化して、「ある答えを形にする」という一連の作業だと思う。

——「答えを形にする」こと、ですか。

たとえば、僕が手がけた江崎グリコのロゴ。あれは企業側の考えた「おいしさと健康」というコンセプトが基になっている。それを自分の中で考えてみたら「お母さんの優しさ」だと思ったの。そこから、あの柔らかな手書き文字っていう答えは必然的に導き出されるんだよね。も

ちろん、その「答え」が正しいかどうかは誰にもわからないけど。それは好みも反映される世界になるから。でも、その「答え」がどう思われているか調査はできるよね。その結果、マイナスイメージが出たら「答え」を修正していく。そのようにしてフィードバックを積み重ねて、正解に近いデザインを追求していくしかないと思う。

——では、今後の目標は？

デザインは学問的な面もはらんでいると思う。だから、デザインを体系化して、最終的に論文を書けたらいいね。似た分野でも、建築は工学というバックグラウンドがあるから学問になっているし、デザインもそうなりえると思っているよ。

Works

京大で奥村さんが手がけたロゴタイプ・シンボルマークの一例を紹介しましょう。

左：京大のロゴタイプ
中央：学術情報リポジトリ KURENAI
右：iPS細胞研究所

京都大学

KURENAI



京大生に向けてひとこと

——背伸びしてでもいろんな人に会った方がええ。

——京大生に向けてアドバイスをお願いします。

他大の学生を見てきたのもあって、授業しているとみんな優秀だという印象を受けるね。だからこそ、自分の目で見て、自分の頭で考えて、自分の言葉で伝えるようにしてほしい。ムードで流されるのが一番ダメなことだと思う。

——大学は思考の訓練の場と言いますね。他に、僕らが学生のうちにしておくべきことは何だと思いますか？

できる限りいろんな人に会うことやね。何か物事が始まるきっかけは、やっぱり人だと思う。そういう意識を持っておけばいいんじゃないかな。学生のうちは付き

合う範囲が狭いかもかもしれないけれども、チャンスがあれば社会人も含めた外部の人とも付き合ったらええと思うよ。学生だったら人に会うのに遠慮する必要もないと思うし。できる限り背伸びしてでも人に会う方がええ。僕は大学に行っていないから特にそう思うね。

要は、大学の時に自分の時間をうまく使っておいたらいいと思う。人脈を広げるのもいいし、自分の興味のある勉強をするのもいい。本当に面白かったことがあればトライしていけばいいと思う。そのとき、作っておいた人脈のおかげで誰かに手助けしてもらえるかもしれない。だから、学生時代にいろんな人に会っておいてほしいね。

——ありがとうございました

（農・2 やまつ）
（考えるの割と大変ですからね；編）



▲机の上にあった仕事道具

はみだし
すてーじ

逸脱舞台
⇒京大生と編集部員が織り成す即興劇。